

「消化管粘膜下腫瘍(SMT)の診療」と題して、6年ぶりに粘膜下腫瘍を取り上げた。前回は下部消化管に限った特集号であったが、今回は全消化管を網羅する形で企画させていただき、特大号として紙面もより充実したものとなっている。いずれの論文も読み応えのある秀逸なものばかりであり、ご多忙のなか執筆くださった各先生方に、この場を借りて、心より感謝、御礼申し上げます。

対策型の胃癌内視鏡検診が開始され、これまでも増して、非常に多くの上部消化管内視鏡検査(EGD)が全国的に行われている。消化器がん検診学会発行の「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル2015年度版」によると、現在、年間約1,000万件のEGDが行われており、今後、対策型検診で行われているX線検査の3割がEGDに置き替わった場合、EGDの検査件数が約10%増加するとの試算がなされている(5割で16%, 8割で26%, 10割で31%)。国民の内視鏡受診機会が増加すれば、その分だけ、当然、粘膜下腫瘍に遭遇する機会も増加する。本特集号を、日常内視鏡診療のお供として、ぜひお役立ていただきたい。

粘膜下腫瘍の精確な診断、治療方針の決定には超音波内視鏡(EUS)が不可欠である。しかし、その対象疾患頻度と有用性に比し、EUSの普及は十分進んでいるとはいえない。これはEUS関連機器が高価で、検査に時間と手間を要するにもかかわらず、診療報酬点数上、所定点数に300点を加算するのみの、いわゆる“不採算検査”であることに大きく起因する。小生が委員長を拝命して4年の歳月をかけて作成した内保連外保連合同内視鏡試案第一版では、内視鏡技術の診療報酬における矛盾を解決すべく、客観的データに基づいた適正な診療報酬点数案を提示している。ここで提示している計算式を用いると、通常のEGDが18千円に対し、EUSは158千円と算出された。現在の点数と大きな乖離がある。EUSが、今後、診療報酬上も正當に評価され、全国で広く簡便に行われるようになり、本領域における多くの知見が日本から発信される日を夢見て、駄文を締めくくりたい。

(藤城光弘)

臨牀 消化器内科® Vol. 33 No. 12

©2018年10月20日発行

本号特価(本体3,000円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2018. Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791